



発行日:平成22年1月1日 第6号
福島日中文化交流会 事務連絡先
〒960-0613 福島県伊達市保原町字内町21-5
Tel/Fax 024-575-2071 携帯:090-2360-3275
Email:mayumi_mihojp@yahoo.co.jp
URL:<http://www.rizhongwenhua.com>



新年あけましておめでとうございます。

代表幹事 岩間真弓

会員のみなさまにおかれましては、お健やかに輝かしい2010年をお迎えになったことと思います。昨年は、会員のみなさまのご支援とご協力により実りある活動ができましたこと心から感謝を申し上げます。

昨年の当福島日中文化交流会の活動を振り返りますと、通年の中国語会話教室、花架拳教室、健康マージャン教室、日本語教室に加え、会の活動を多くの方に知つていただくため、夢であったホームページを立ち上げることができました。また、5月末には大連市政府のご好意により高橋重夫団長をはじめとする14名がアカシアの咲く大連市の大連大学で楽しく中国語を学んで来ることができました。大連では大変な歓待を受け、現地の方々の熱い人情味に触れながら忘れられない思い出作りができました。秋には中国の伝統文化である中秋節交流会を飯田加寿子先生のすばらしく迫力のある花架拳の演舞と若月美香先生のフルート演奏とのコラボレーション、月餅を食べながら中国人30人、日本人30人、合計60人が集うという会になり、大変賑やで盛大なひと時を過ごすことができました。また、桑折町で行われた芋煮会もおよそ30人が集まり中国本場の餃子や芋煮を作つて食べ、思い出に残



る楽しい一コマになりました。特に日本語教室で学ぶ生徒さんや、中秋節交流会で知り合った中国人の多くの方々が会員に加わり一緒に活動できたことがより一層友好の輪を広げることになったのではないかと思います。

一年を振り返りますと本当に充実したいい活動ができたのではないでしょか。これも会員のみなさまのご協力あっての事感謝申し上げます。

さて、今年は庚寅（こういん）年。虎は、古代中国では、西方の守り神です。「新春跨虎来」—新春は虎に跨りて来たる—「強い虎」にあやかつて今年は、中国人の友人、会員と会員の絆、団結心を強く持ち、更なる友好交流発展のため、当福島日中文化交流会ならではの活動を展開できればと願っております。現在、会員数も発足当時のおよそ2倍、85名にもなりました。年代も10代～80代と年齢の幅も広く、多くの方々が会の活動を楽しみにしてくださっているのがわかります。年齢は違えども好きなものは同じ、同じ目的のため楽しく集うというのは、互いに得るものが多く豊かなものになります。今年もこのように仲良く楽しく活動を行つていきたいと思います。

今年も一年会員のみなさまがご健康でご活躍されますことを祈つて年頭のごあいさつとさせていただきます。





——満話乱書——

川の流れと共に

西暦2010年が明けた。皇紀でいうと2670年である。想い出多い少年時代の「金鶴輝く日本の～」の紀元二千六百年から70年が経つ。

私は10年前、つまり二十世紀末に、詠進歌のお題「時」の一首として、次の歌を詠んだ。

悠久の時の流れに抱かれて

来る世紀を迎ふよろこび

ついこないだのような気がするが、あれからでさえ10年、まさに《光陰矢のごとし》だ。そして、口に出るのは美空ひばりの《川の流れのように》である。川の流れも悠久であり、「♪知らず知らず～歩いてきた～細く長いこの道～♪」と唄つてみると、その来し方は、歌詞のように「ゆるやかに～」でも、「おだやかに～」でもなかつたが、懐旧の情をそそり、私の生い立ちや暮らしが、流れる川と共にあったことに気付く。

×

最初の川は阿武隈川である。物心がついた5歳の春であった。家の裏手が川で（宮城県丸森町）、ある朝父に小舟に乗せられ、前日の仕掛けを上げるのを見せられた。細い綱をたぐると銀色の大きな魚に混じり、赤い魚が掛かっていた。“あかはら”と呼ばれるハヤであろう。当時は時々筏（いかだ）が川を下っていて、一度は小屋のある筏（いかだ）を見たことがある。姉様かぶりの農婦の姿があった。川は今と比べると断然水量が多かつた。

次は入学前の年、6歳の夏から晩秋に掛けての、神奈川県鎌倉市を流れる滑川（なめりがわ）である。住まいは河口に近い材木座にあって、川まですぐの所だった。当時は自然そのもので、岸には葦が生い茂り、ギンヤンマが飛んでいて、遊び友達が

居なかつた私には格好の遊び場だった。

この川は、歴史的にも有名な川で、鎌倉時代は海上交通が盛んだったというから、河口は大変な賑わいだったと思われる。短い期間ながら、この鎌倉に淡い想い出（外人男性に顔中キスされ驚くなど）があるのは、この齢になると嬉しいことだ。

丁度20年前、52年ぶりに訪れたが、両岸は整備されて川には真鯉、緋鯉が泳ぎ、海岸は沖に遠退いて新たに国道（バイパス）が走るなど一変していた。ギンヤンマを追つた場所もしっかり護岸されて、変電所のビルが建っていた。

そして、昭和17年から3年間の国民学校高学年の時の川は、“予科練”で知られる茨城県土浦市の備前川（通称、赤川）である。土浦には桜川も流れていて、何れも霞ヶ浦に注いでいるが、家から近い幅5メートル程の備前川には、釣竿やヤスを持ってよく行ったものだ。目指す魚はフナ、ライギョで、曇っている日はうなぎが釣れた。今でも覚えているが、川に着いて餌をつけ、浮き下や錘を調整しようと、釣り糸を入れた途端、勢いよく浮きが沈む。おかしいと思ったら大きなフナが喰いついたのだった。あの時の嬉しかったこと！全身を走った躍動感と共に今なお忘れない。

その頃は戦時中ながらまだ長閑で、日曜日には2キロほど先の航空隊の予科練習生が、白いハンカチに包んだ弁当を小脇に、二人三人と川の土手を歩いて行く。街の映画館に行くのである。その多くが南の空に散った。高松宮妃殿下のお歌『海ばらにはた大空に散華せし 君ら声なく幾春やへし』が浮んで来る。思えばまこと胸が痛む。

昭和20年春から再び阿武隈川（旧伊達町）に戻った。住まいは川まで50メートル程の近さだから、戦時中の焚き木拾いから、水浴び、魚取りと付き合った。現在は瀬上町に移って川は摺上川となり、菜園の水やりに助かっている。ところで、近くに川が流れているのと、いないのとでは、大変な違いだ。川を眺めれば心が和むし、大きく息を吸えば、空気もしっとりと美味く感じるから不思議だ。まして流れが美しければ尚更である。

皆さん、今年は是非わが町の悠久の流れ阿武隈川を眺め、思いを新たにされては如何でしょうか。

中秋節交流会に参加して

(10月4日実施)

皆さん、こんにちは。

ご縁があって会員に加えさせて貰いました坂本でございます。よろしくお願ひ致します。

転勤で福島に住むことになり、日中文化交流会に入会し、初めて参加した催しが「中秋節交流会」でした。

当日、会場に着くと直ぐに元気な中国語が聞こえてきて、

中国の方がたくさん参加されていることを知りました。日中あわせて60名以上の参加者があったそうですが、その賑やかな雰囲気にまず驚きました。中国語や日本語でのおしゃべりに興じ、皆さんとても楽しそうでした。

そして、文字当てゲームや、bingo、中国各地の方言での挨拶など、さまざまな趣向で会場は大いに盛り上がり、私も賑やかな中秋節の雰囲気を、十分楽しませていただきました。

後半のピアノとフルートの演奏では、思わず歌を口ずさんで居られる方もいらっしゃったようです。

「花架拳」は、初めて拝見したのですが、その力強くも優雅な舞に、魅了されました。ステキな「表演」をありがとうございました。

普段は主に日本語教室の活動に参加しているだけで、他の会員の方と接することが少なかったのですが、今回の中秋節交流会は、皆さんとお会いできるとてもよい機会でした。



中国語で「有縁」という言葉が好きです。縁があるからこそ、出会いがあるのでしょう。

これからも、「日中文化交流会」の活動を通して、福島での出会いを積み重ねていきたいと思っております。皆さん、どうぞ宜しくお願ひ致します。

(坂本砂知)



この間中秋節交流会に参会させて頂き、誠にありがとうございました。交流会の機会で、色々な人と出会った。楽しかった。日本にいる私は、こんな盛り上がったパーティーに参加出来ることと思わなかった。身の回りに中国語が流れ、故郷に戻った感じでした。懐かしかった。最後のbingoゲームも楽しかった。いつか、またこんなチャンスがあれば、ぜひ参加させて下さい。

(耿為)



芋煮会

10月25日の日曜日、半田山自然公園で芋煮会が行われました。自然に囲まれたキャンプ場で、みんなで作った芋煮や中国人参加者による水餃子、佐久男さんのご飯でつくったおにぎりなど、お腹いっぱいいただきました。その他にも、差し入れをしてくださったり、車を出してくださったりと、会員の皆さんのご協力のおかげで、楽しい芋煮会になりました。ありがとうございました。

(安齋紀子)



(写真1)

中国人の皆さんが、水餃子を手作りしてくれました！さすが、本場の味です。



(写真2)

りっぱな看板は佐久男さんの手作りです！



(写真3)

みんなで作ったあつあつの芋煮で、心も体もほつかほか。



どうの広場

(2009.11.14 実施)

シトシトと窓の外には降りしきる雨。新聞・テレビのメインニュースは新型インフルエンザ。そんな中、土曜の広場の開催を英断した中央学習センター。ならば、“中国語の楽しさ”と“本物の中国”を伝えることでその心意気に答えましょう。私たちは、日中の文化交流と友好を目的とした団体ですから。

それでも、子どもたちは来てくれるのか一抹の不安が有りましたが、子どもたちは来てくれました。しっかりマスクで武装をして。

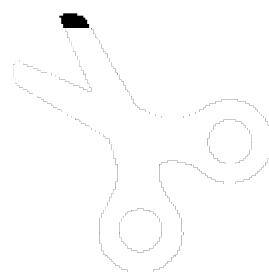


「お爺さんとお婆さんが、中国に居たことが有るんだ。」そんな中国通の男の子を相手するのは、高橋重夫顧問。中国地図を見ながら「どこに居たの？」中国語の絵本を読んでもらって「ピンイン無しで読めるんだ。すごいね。」と此の子の伝えたいことを引き出していく。お父さんには「春節のお目出度い言葉には、清朝歴代皇帝の名前が織り込んで有りますね。」と漢字の国ならではの文化を伝えます。

「中国のジャンケンはパーが風呂敷なんだよ。」と岩間真弓代表が身近なところから女の子に興味を持たせ、親子中国語教室の始まりです。「手紙の意味は、日本語と中国語で全然違うんだよ。」「この記号のように見えるものも、立派な漢字なんだよ。」

「この漢字は、中国語ではこんな風に発音するんですよ。」その時には、お母さんも女の子も同級生になって、中国語の世界に入り込んでいました。

「僕、習字を習っているんだ。」そんな男の子には、会で書道といえば渡部千佳子幹事。中国の書き方の教科書を使って中国の漢字を指導していきます。「ここは、止めると



ころ。ここは、撥ねるところ。」子どもに書道を習わせているお母さんも書き方には興味が有ります。ここでも親子中国語教室の始まりです。「書き方覚えたら、発音も一緒に覚えましょう。」発音は、お母さんより男の子の方が、ちょっとだけきれいなようです。日本語を話していた時間がお母さんの方が長かった為ですね。

例年よりは入場者が少なかったですが、その分スタンプラリーのハンコだけ押して他に行ってしまうような子供たちが居なかつた分、中身の濃い活動になったようです。

(齋藤佐久男)



これは11月28日中国語検定試験の時に新型インフルエンザ対策のため斎藤佐久男さんが受験生のために作ったマスク入れと消毒液の入れ物



バラエティ中国ショウ 30分間、ぶっつけ本番

結・ゆい・フェスタで熱演

福島市と市国際交流協会主催の「結・ゆい・フェスタ 2009」が 11 月 15 日市民会館大ホールで開催されました。わが日中文化交流会も協力出演し、文末のお名前のように代表幹事以下 8 名の会員が、民族衣装も華やかにステージ上で演技を披露し、大いに会の PR に努めました。



市民に国際交流の場を提供しようという催しで、今年が 6 回目ということでした。ホール両サイドに中国、韓国、ベトナム、フィリピン、ロシア、ブラジルなどのブース…といつてもテーブル二つくらいの簡単なものですですが、留学生や関係者がそれぞれお国振りの紹介をしたり、食べものを売ったり。

定刻 10 時半、ステージ演技のトップが日中文化交流会で時間枠は 30 分間、まず岩間、矢部、斎藤さん 3 人が花架拳のサワリを二胡の旋律にあわせて。次に雲南納西族に伝わる不思議な東巴文字を、斎藤さんがプロジェクトで拡大しながら丁寧に解説。その次はあの有名な唐詩「楓橋夜泊」月落ち鳥啼いて…を中国語で味わう模擬講義を高橋が。フィナーレは民族衣装の全員オンステージ、岩間さん自信たっぷり独擅場の説明に、フロアの中国人も感心しきり



の顔で聞き入っていました。

この長丁場のステージは内容とりどり、中国バラエティと言ったらよいでしょうか、しかも練習も打ち合わせも一切無しのぶっつけ本番です。見事というか、大胆というか、ふてぶてしいというべきか—「なんとか出来るもんだねえ」というのが、皆さんの率直な感想のようでした。

今回私（高橋）の印象に強く残った事柄を挙げますと…。

(1) 当日用事で参加できなかった渡部千佳子（書家・羽田招佳）さんが、

せめてものお手伝いといって「楓橋夜泊」の七言絶句を、襖 1 枚半ほどの大きさに見事な筆致で大書してくださいました。

さらにそれを斎藤さんが、玄人はだしに裏打ち表装仕上げし、おかげで立派な掛け軸がステージを格段に盛り上げました。フロアの老人から「どちらの先生の作品ですか」と聽かれたほどです。この会には特技と誠意ある会員が揃っていることが心強いですね。



(2) 外部の要望に応え活発な交流活動を展開する



上で、カラフルな少数民族の衣裳は強力なツールです。これはご存知のように、岩間代表幹事が中国に出かけた都度、到る所でこつこつと（または遮二無二、或いはしつこく）買い集めた個人財産であり、それを会のために利用させてもらっているものです。これを忘れずに感謝し、せめてクリーニング代くらいは会で負担すべきだと思います。

(3) このフェスタと学習センターの土曜のひろば、どちらも実質参加する市民が少なく、出展・出演関係者の数にも及ばないのが実情。形だけ整えてやったような顔で済ますのは役所の悪い癖です。PR方法などのやり方を真剣に検討するよう主催者に申し入れるべきでしょう。

以上とにかく 10 月・11 月は中秋節、芋煮会、文化祭、結いゆいフェスタ、中検テスト…その間に月例健康マージャン、花架拳と催し集中しましたが、会員皆さんの応援で大いに盛り上り、よかったです、よかったです！

フェスタ出演は次の 8 名です。ご苦労さまでした。

岩間真弓さん、斎藤佐久男さん、矢部良子さん、高坂愛里ちゃん母娘、三浦信子さん、佐々木なおこさん、高橋重夫。　（高橋記）



福島市中央学習センター 文化祭り参加

10月4日（日）中央地区の文化祭（福島市中央学習センター主催）に福島日中文化交流会からステージ発表を行いました。内容は、花架拳、唐詩、民族衣装紹介、会の紹介を喜劇風にまとめ発表を行いました。終わったあとでホッとしておいしい芋煮やおにぎりを食べました。　（岩間真弓）



ぼ～ねんかいは楽しかったなあ！

12月5日（土）野地温泉で行われました忘年会は、会員同士互いに親睦を深めることができとても楽しかったです。山の中の露天風呂も良かったしお料理もおいしかったし、かくし芸もよかったです。

(岩間真弓)



矢部良子さん
老いも若きも楽しいひとときを過ごせて良かった～。来年も楽しみです。

渡部千佳子
箕輪に程近い野地温泉。風情のある初雪の中、私が惚れ込んでいる白濁の、効き目バツグンのお湯を頂いて！ハナマルでした!!

高橋重夫さん
みんな予想以上に楽しそうで非常に結構でした。また、来年もやりたいですね～♪
カラオケの道具は、凄かったです。

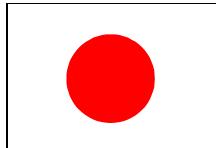
福嶋富士雄さん
本当に楽しく過ごしていただきました。また、来年も是非、生きていればの話ですが参加したいですね。

高橋さん“小唄”
をご披露していただ
いています。



柳沢ご夫婦：
うんと良かった。毎日でも
いい。温泉白くてよかったです
ね～





お知らせ



いつも福島日中文化交流会へのご支持とご協力感謝申し上げます。

平成21年度の会費及び各種会費納入のお願い

下記へよろしくお願ひいたします。

会費納入について

- (1) 郵便局振込みの場合(お近くの郵便局で)
02220-7-105525 福島日中文化交流会
- (2) 銀行振り込みの場合
振込先:普通預金 東邦銀行保原支店
口座番号:733649
名義人:福島日中文化交流会
代表幹事 岩間真弓
住所:〒960-0613
伊達市保原町字内町 21-5
- (3) 会費について
法人会員 10,000円 個人会員 3,000円
中国人会員 500円

中国語会話教室からお知らせ

◎中国語会話教室第35期募集!

日時:平成21年10月～平成22年3月

(時間は各級による)



場所:福島市中央学習センター

内容:入門・初級・中級

費用:一ヶ月 3,000×6ヶ月 = 18,000円

講師:李淑薇・岩間真弓

※一クラス分の授業料で3クラス受講可能

◎高級班勉強会のお知らせ

日時:平成22年3月まで 毎週木曜日15時～16時

場所:福島市中央学習センター

内容:通訳ガイド試験、検定試験1級など

対象:レベルは検定試験準1級以上

◎第70回中国語検定試験開催

日時:平成22年3月28日(日)

場所:福島テルサ

内容:準4級・4級・3級・2級・準1級

「当面の行事のお知らせ」

1 花架拳教室

日時:毎月第2日曜日(都合により変更もある)

場所:福島市中央学習センター

内容:護身術である花架拳を演舞する

費用:平成21年4月～平成22年3月(9,600円)

講師:日本花架拳学会 飯田加寿子

2 健康マージャン教室

日時:毎月第2日曜日(都合により変更もある)

場所:福島市中央学習センター

費用:1年分 6,000円(500円×入会月から)

内容:吸わない・飲まない・賭けない健康なマージャン



3 日本語教室

日時:毎週木曜日 16:00～17:30

場所:福島市中央学習センター

講師募集!

内容:中国人に日本語を教える

*講師料はお支払いできません。教科書各自負担。



4 雪上交流会

日時:平成22年1月16日(土)

西口9:00集合

場所:塩沢スキー場

内容:雪遊び、スキーで楽しく交流

5 春節交流会

日時:平成22年2月14日(日)10:00～16:00

場所:福島市中央学習センター

費用:500円

内容:中国の春節に餃子を作って食べたり、健康マージャンをしたり楽しく交流する。

ホームページ開設のお知らせ

皆様、是非アクセスお願いします。

ブログも書いてね!!待ってます。

<http://www.rizhongwenhua.com>

《編集後記》

今回は中秋節などの記事、写真を多く寄せて頂きありがとうございます。いろいろなイベントを多く企画していますので、大勢のご参加でより楽しい記事を期待しております。今後も皆様から多くの情報のご提供を宜しくお願いします。

(編集:岩間真弓 印刷:斎藤佐久男 発送:安斎紀子)